

平成30年度 公益財団法人大学セミナーハウス
eラーニングによる教員免許状更新講習
提供科目

【共通事項】

講習の開催地：インターネット

*ただし、試験については随時、申込み時に選択した試験会場で実施。

時間：6時間/科目

受講料：9,000円/科目

受講人数：2,000人/科目

募集期間：平成30年3月16日（金）～平成31年3月31日（日）

開講期間：平成30年4月16日（月）～平成31年3月31日（日）

学校種：幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校

免許職種、教科等：特定しない


職務経験：特定しない

対象職種：教諭、養護教諭、栄養教諭

主な受講対象者：全教員

*表の    をクリックすると、それぞれの講習の一部（約40分）を体験できます。

▼講習画面例（「問い」を生きる教師へ）



INDEX NOTE

「問いを生きたる」教師へ ―教員自の―

【1】自分への問いを持つということ

- ・教育には「教えること」の出来ない
- ・「本当のこと」人間的真理は、後…
- ・「答え」を教える授業から「問い」を…

【2】私は、本当のところ、何を願っ…

- ・「主に自らを砂だねよ。主はあな…
- ・心の「どん底」で、なおも願いし…

・願い/欲求の多層性

▷ 心の井戸掘り

【終わりに】

【Ⅱ】私は、本当のところ、何を願っている人間なのか
―誰もが「未開の泉」を持っている―

- 願い(欲求)の多層性 (タマネギの皮)
「本当は、そんなこと言いたくないのに…」(高1)
動物的本音 vs 人間の本音
- 心の井戸掘り → 生命の根源から流れ出る地下水脈
→ 「他者」の目から自由になった場所から湧き出る「願い」
「私は、自分の内面を無視していたのです…」(高3の自己洞察)

提供科目の一覧

〈ご注意〉

- 文部科学省により、更新講習は必修科目を1科目（6時間）、選択必修科目を1科目（6時間）、選択科目を3科目（18時間）の合計30時間を受講することが定められています。
本eラーニング講習では、手続きに必要とされる30時間の全科目を受講することが可能です。
また、1科目（6時間）単位の部分受講も可能です。
- 以下の「選択必修領域」と「選択領域」とで、同一名称の講習を選択することはできません。

【必修領域】eラーニングによる教育の最新事情

体験動画

講師	<p>葛澤 元晴（早稲田大学大学院講師、実践女子大学講師） 加藤 彰彦（沖縄大学名誉教授、NPO法人ワーカーズコープ顧問）</p>
概要	<p>本講習では、「学校をめぐる近年の状況の変化」、「法令改正及び国の審議会の状況」、「学習指導要領の改訂の動向」により、国の最新の教育政策・教育改革の動向について理解を深める。 さらに、「子ども観と教育観の形成」、「子どもの成長とその支援」、「子どもの生活環境の変化」を紹介することにより、子どもについての最新の知見を提供する。</p>

【選択必修領域】教育相談への期待と課題——不登校・いじめの克服をめざして——

体験動画

<p>取り扱う事項：教育相談（いじめ及び不登校への対応を含む。）</p>	
講師	<p>加藤 彰彦（沖縄大学名誉教授、NPO法人ワーカーズコープ顧問）</p>
概要	<p>教育の役割は教科学習が中心だが、その根底には社会人（自立した市民）として育てるという役割もある。 そのためさまざまな問題（不登校、いじめなど）を抱え苦しんでいる子どもたちの相談にのり、課題を共有しつつ乗り越えていく支援をすることが重要である。 問題を子どもと共有しつつ、家庭、学級の生徒、学内外とも協力し、課題を解決し、また教育のあり方を改善していくことも目指していく。</p>

【選択必修領域】健やかな子どもの生と性を育むために——性の人権、科学、道徳について考える——

体験動画

<p>取り扱う事項：道徳教育</p>	
講師	<p>村瀬 幸浩（“人間と性”教育研究協議会幹事、日本思春期学会名誉会員、季刊雑誌『sexuality』副編集委員）</p>
概要	<p>本講習ではまず、「性」について子どもたちに学ばせることの意義、必要性を理解していただく。 つぎに、人の生命のなりたち（出産・出生）について、さらに「からだ」と「性」、「心」が成長し変化しながら大人になっていく状況を説明したい。 最後に、人権・科学・道徳的観点からどのような指導、アドバイスがふさわしいかを紹介したい。</p>

【選択必修領域】情報教育の基礎と教育へのICT活用

体験動画

<p>取り扱う事項：教育の情報化（情報通信技術を利用した指導及び情報教育（情報モラルを含む。）等）</p>	
講師	<p>有賀 清一（桜美林大学 ビジネスマネジメント学群ビジネスマネジメント学類非常勤講師、株式会社サンクタス代表取締役）</p>
概要	<p>本講習では、最初に情報の基礎を概説し、情報リテラシーと情報モラルとは何かを説明し、扱い次第で危険なものであることを理解していただく。ついでICTを活用することによってコミュニケーションがいかに豊かになるかを理解していただく。具体的には、アクティブラーニングやeラーニング作成方法など、授業運営に活用できるノウハウを提供したい。</p>

【選択必修領域】学校危機管理——3つのLackの視点から——		体験動画
取り扱う事項：学校における危機管理上の課題		
講師	葛澤 元晴（早稲田大学大学院講師、実践女子大学講師）	
概要	近年、学校の内外には「学校危機」に直結する様々な問題が起き、その度に学校危機管理のありようが問われている。本講習では、「学校危機」は何故に起きるのかを3つのlack（欠如）という視点から考察するとともに、その未然防止（リスクマネジメント）のあり方や手法、心構え等についても考えていきたい。	
【選択必修領域】学校、家庭、地域との連携と協働		体験動画
取り扱う事項：学校、家庭及び地域の連携及び協働		
講師	加藤 彰彦（沖縄大学名誉教授、NPO法人ワーカーズコープ顧問）	
概要	現代の子どもの成長を支える機能は、学校教育だけではその内容の多様さと複雑さのため限界があることは明らかである。そこで、子どもたちの生活している地域社会をもう一つの学びの場として位置づけ、地域社会との連携をはかりつつ協力し、子育てすることが必要となってくる。 本講座では、学校を地域に開き、家庭・地域と連携して学ぶ新たな学校教育のあり方を考察し、地域づくりの拠点としての学校のあり方をめざす教育論を展開する。	
【選択必修領域】人権、共生、道德に関する性の学習——思春期の性と生を育てる——		体験動画
取り扱う事項：道德教育		
講師	村瀬 幸浩（“人間と性”教育研究協議会幹事、日本思春期学会名誉会員、季刊雑誌『sexuality』副編集委員）	
概要	思春期を境に子どもたちのからだ、こころは大きく変化する。その変化は性意識、性行動にあらわれやすく、子どもたちを不安にし悩ませることになる。このことについて指導する人たちは改めて深く理解し、子どもたちが直面する自立の課題に立ち向かえるよう援助したいものである。また性の問題は人権と相即不離であるとともに人の生き方、道德とも深くかかわるテーマでもあることをわからせ指導したい。本講習では性の問題をとおり、道德教育や指導についても考える。	
【選択必修領域】様々な教育課題をかかえる学校の現状と組織的対応		体験動画
取り扱う事項：様々な問題に対する組織的対応の必要性		
講師	大和久 勝（元國學院大學兼任講師）	
概要	本講座では、様々な教育課題をかかえる学校の現状を踏まえ、組織的対応の必要性、学校組織の一員として行動するマネジメント・マインドの重要性、学校・家庭・地域社会との連携の在り方などについて考察する。いじめの問題、不登校や虐待の問題、発達障害理解の問題、保護者の問題などは、組織的対応をいかにつくり出していくかが問題解決のカギとなることを理解していきたい。	
【選択必修領域】「問いを生きる」教師へ——教員の自己吟味力を高めるために——		体験動画
取り扱う事項：学校を巡る近年の状況の変化		
講師	安積 力也（元・日本聾話学校校長、元・恵泉女学園中学高等学校校長、元・基督教独立学園高等学校校長）	
概要	生きづらさを抱えて苦しんでいる子ども達が多い今、教員の「心のバリアフリー」の理解が必要とされている。教師は「自分を知る量」までしか、生徒を理解できない。問われるのは、教師自身の「自己吟味力」である。なお人間教育（子どもが固有の「私」になる教育）を志すならば、常に問いつづけるべき「自問」がある。学校を巡る近年の状況の変化と、私自身の苦しかった教師経験を語りつつ、いくつかの本源的な「自問」を提示して、受講者の自己理解に供したい。	

【選択必修領域】「聴く」教師・「待つ」教師へ——日本と聾話学校の教育が問いかけてくること——	
取り扱う事項：学校を巡る近年の状況の変化	
講師	安積 力也（元・日本聾話学校校長、元・恵泉女学園中学高等学校校長、元・基督教独立学園高等学校校長）
概要	子どもが思春期以降、心のバリアのない真の自立をするために、乳幼児期に経験しておくべきことは何なのか。そのために幼稚園教員に何が問われているのか。先天性聴覚障がい児の「言葉（音声言語）」を育てる教育を探求し続けてきた日本聾話学校の現場からの知見を中心に、両親ガイダンスのあり方を含め、近年の学校を巡る状況の変化や問題提起的な話しをしたい。本講習は子どもの成長を支える教員の参考となる内容が多く含まれていることから、幼稚園教諭以外も対象とする。
【選択必修領域】子どもの貧困問題と学校教育	
取り扱う事項：学校を巡る近年の状況の変化	
講師	加藤 彰彦（沖縄大学名誉教授、NPO法人ワーカーズコープ顧問）
概要	学校を巡る状況の変化の中で、殊に問題化している貧困とは何か。また貧困と子どもの成長に相關関係はあるのかを検討した上で、子どもの生活実態のデータをもとに考察する。 また、制定された「子どもの貧困に関する大綱」の理解のため、内容を解説する。 その上で、学校現場で何ができるか、具体的に実践例を示しつつ考える。 全ての子どもが通う学校には、他の専門機関、地域の方々とも協力し、総合的に子どもを支え、成長させていくプラットフォームとしての役割があることを確認する。
【選択必修領域】耳をひらく、心をひらく——音から育む人間の豊かな感性、創造性——	
取り扱う事項：学校を巡る近年の状況の変化	
講師	宮内 康乃（音楽家、青山学院大学・東京学芸大学・帝京大学・学習院大学特別講師）
概要	「ユニバーサルデザイン 2020 行動計画」（29.2.20 関係閣僚会議にて決定）において、教員の「心のバリアフリー」の理解のための取組みが必要とされたように、近年の学校を巡る状況は大きく変化しており、その理解と対応が強く求められている。本講座では、学校を巡る近年の状況の変化を学ぶとともに、誰でも参加できるシンプルなアプローチで、素直な感性を開き、世代や人種を越えた多様な人たちとのコミュニケーション能力や、自由な創造性を養っていく（心のバリアフリー）方法を、実践例を示しながら紐解いていく。
【選択領域】教育相談への期待と課題——不登校・いじめの克服をめざして——	
講師	加藤 彰彦（沖縄大学名誉教授、NPO法人ワーカーズコープ顧問）
概要	教育の役割は教科学習が中心だが、その根底には社会人（自立した市民）として育てるという役割もある。 そのためさまざまな問題（不登校、いじめなど）を抱え苦しんでいる子どもたちの相談にのり、課題を共有しつつ乗り越えていく支援をすることが重要である。 問題を子どもと共有しつつ、家庭、学級の生徒、学内外とも協力し、課題を解決し、また教育のあり方を改善していくことも目指していく。
【選択領域】健やかな子どもの性と生を育てるために——性の人権、科学、道徳について考える——	
講師	村瀬 幸浩（“人間と性”教育研究協議会幹事、日本思春期学会名誉会員、季刊雑誌『sexuality』副編集委員）
概要	本講習ではまず、「性」について子どもたちに学ばせることの意義、必要性を理解していただく。 つぎに、人の生命のなりたち（出産・出生）について、さらに「からだ」と「性」、「心」が成長し変化しながら大人になっていく状況を説明したい。 最後に、人権・科学・道徳的観点からどのような指導、アドバイスがふさわしいかを紹介したい。

【選択領域】情報教育の基礎と教育へのICT活用		体験動画
講師	有賀 清一 (桜美林大学 ビジネスマネジメント学群ビジネスマネジメント学類非常勤講師、株式会社サントクス代表取締役)	
概要	本講習では、最初に情報の基礎を概説し、情報リテラシーと情報モラルとは何かを説明し、扱い次第で危険なものであることを理解していただく。ついでICTを活用することによってコミュニケーションがいかに豊かになるかを理解していただく。具体的には、アクティブラーニングやeラーニング作成方法など、授業運営に活用できるノウハウを提供したい。	
【選択領域】学校危機管理——3つのLackの視点から——		体験動画
講師	髙澤 元晴 (早稲田大学大学院講師、実践女子大学講師)	
概要	近年、学校の内外には「学校危機」に直結する様々な問題が起き、その度に学校危機管理のありようが問われている。本講習では、「学校危機」は何故に起きるのかを3つのlack (欠如) という視点から考察するとともに、その未然防止 (リスクマネジメント) のあり方や手法、心構え等についても考えていきたい。	
【選択領域】学校、家庭、地域との連携と協働		体験動画
講師	加藤 彰彦 (沖縄大学名誉教授、NPO法人ワーカーズコープ顧問)	
概要	現代の子どもの成長を支える機能は、学校教育だけではその内容の多様さと複雑さのため限界があることは明らかである。そこで、子どもたちの生活している地域社会をもう一つの学びの場として位置づけ、地域社会との連携をはかりつつ協力し、子育てすることが必要となってくる。 本講座では、学校を地域に開き、家庭・地域と連携して学ぶ新たな学校教育のあり方を考察し、地域づくりの拠点としての学校のあり方をめざす教育論を展開する。	
【選択領域】人権、共生、道徳に関する性の学習——思春期の性と生を育てる——		体験動画
講師	村瀬 幸浩 (“人間と性”教育研究協議会幹事、日本思春期学会名誉会員、季刊雑誌『sexuality』副編集委員)	
概要	思春期を境に子どもたちのからだ、こころは大きく変化する。その変化は性意識、性行動にあらわれやすく、子どもたちを不安にし悩ませることになる。このことについて指導する人たちは改めて深く理解し、子どもたちが直面する自立の課題に立ち向かえるよう援助したいものである。また性の問題は人権と相即不離であるとともに人の生き方、道徳とも深くかかわるテーマでもあることをわからせ指導したい。本講習では性の問題をとおし、道徳教育や指導についても考える。	
【選択領域】様々な教育課題をかかえる学校の現状と組織的対応		体験動画
講師	大和久 勝 (元國學院大學兼任講師)	
概要	本講座では、様々な教育課題をかかえる学校の現状を踏まえ、組織的対応の必要性、学校組織の一員として行動するマネジメント・マインドの重要性、学校・家庭・地域社会との連携の在り方などについて考察する。いじめの問題、不登校や虐待の問題、発達障害理解の問題、保護者の問題などは、組織的対応をいかにつくり出していくかが問題解決のカギとなることを理解していきたい。	
【選択領域】「問い」を生きる教師へ——教員の自己吟味力を高めるために——		体験動画
講師	安積 力也 (元・日本聾話学校校長、元・恵泉女学園中学高等学校校長、元・基督教独立学園高等学校校長)	
概要	生きづらさを抱えて苦しんでいる子ども達が多い今、教員の「心のバリアフリー」の理解が必要とされている。教師は「自分を知る量」までしか、生徒を理解できない。問われるのは、教師自身の「自己吟味力」である。なおも人間教育 (子どもが固有の「私」になる教育) を志すならば、常に問いつづけるべき「自問」がある。学校を巡る近年の状況の変化と、私自身の苦しかった教師経験を語りつつ、いくつかの本源的な「自問」を提示して、受講者の自己理解に供したい。	

【選択領域】「聴く」教師・「待つ」教師へ——日本聾話学校の教育が問いかけてくること——

体験動画

講師	安積 力也 (元・日本聾話学校校長、元・恵泉女学園中学高等学校校長、元・基督教独立学園高等学校 校長)
概要	子どもが思春期以降、心のバリアのない真の自立をするために、乳幼児期に経験しておくべきことは何なのか。そのために幼稚園教員に何が問われているのか。先天性聴覚障がい児の「言葉（音声言語）」を育てる教育を探求し続けてきた日本聾話学校の現場からの知見を中心に、両親ガイダンスのあり方を含め、近年の学校を巡る状況の変化や問題提起的な話しをしたい。本講習は子どもの成長を支える教員の参考となる内容が多く含まれていることから、幼稚園教諭以外も対象とする。

【選択領域】子どもの貧困問題と学校教育

体験動画

講師	加藤 彰彦 (沖縄大学名誉教授、NPO法人ワーカーズコープ顧問)
概要	学校を巡る状況の変化の中で、殊に問題化している貧困とは何か。また貧困と子どもの成長に相關関係はあるのかを検討した上で、子どもの生活実態のデータをもとに考察する。 また、制定された「子どもの貧困に関する大綱」の理解のため、内容を解説する。 その上で、学校現場で何ができるか、具体的に実践例を示しつつ考える。 全ての子どもが通う学校には、他の専門機関、地域の方々とも協力し、総合的に子どもを支え、成長させていくプラットフォームとしての役割があることを確認する。

【選択領域】耳をひらく、心をひらく——音から育む人間の豊かな感性、創造性——

体験動画

講師	宮内 康乃 (音楽家、青山学院大学・東京学芸大学・帝京大学・学習院大学特別講師)
概要	「ユニバーサルデザイン 2020 行動計画」(29.2.20 関係閣僚会議にて決定)において、教員の「心のバリアフリー」の理解のための取組みが必要とされたように、近年の学校を巡る状況は大きく変化しており、その理解と対応が強く求められている。本講座では、学校を巡る近年の状況の変化を学ぶとともに、誰でも参加できるシンプルなアプローチで、素直な感性を開き、世代や人種を越えた多様な人たちとのコミュニケーション能力や、自由な創造性を養っていく(心のバリアフリー)方法を、実践例を示しながら紐解いていく。